

令和8年度 全国学力・学習状況調査から見える 児童生徒の学力や授業・生活のようすについて

牧之原市教育委員会・牧之原市菊川市学校組合教育委員会

(1)全国学力・学習状況調査の内容と目的

【児童・生徒質問調査】
学習意欲、生活習慣、学習の
環境等についての意識調査

【国語】
小6・中3

【算数・数学】
小6・中3

【英語】
中3

選択式、短答式、記述式で出題

パソコンで調査

児童生徒が「次代を切り拓く力」を身に付けられるよう、「学力」や「学習状況」を
分析し、今後の授業や教育活動の改善に役立てるために実施しています。



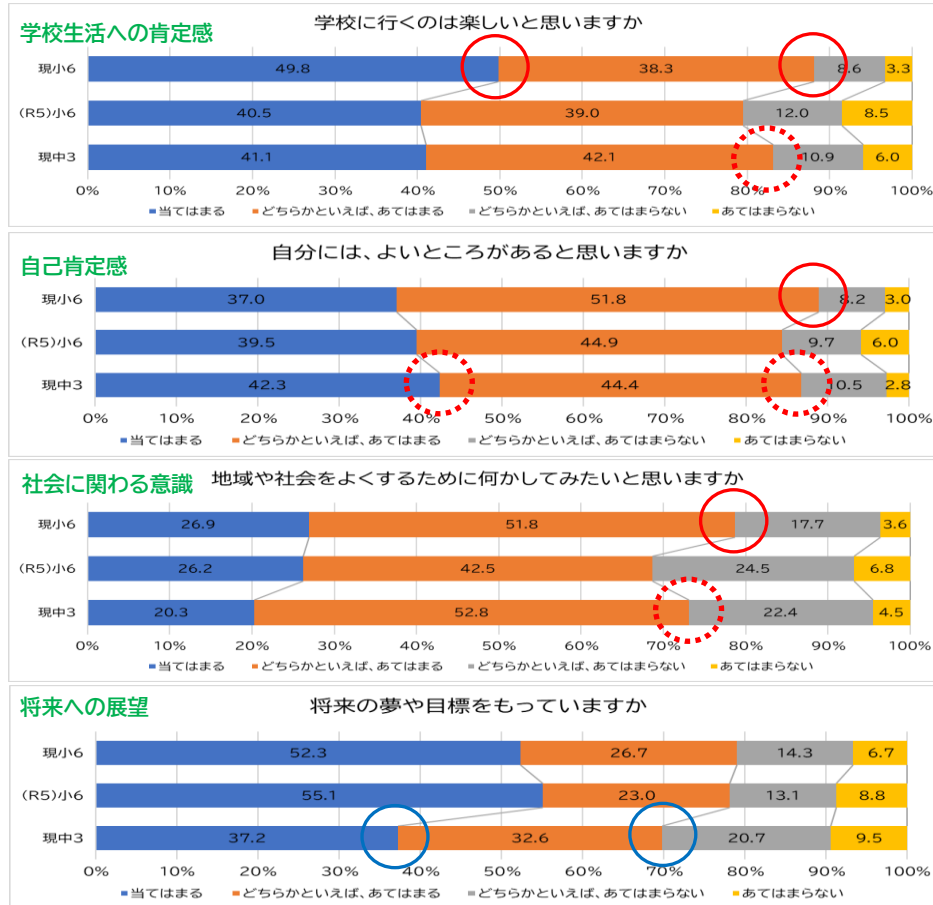
(2)教科に関する調査結果の概要（平均正答数の全国結果との比較）

	国語		算数・数学	
	「ほぼ同じ」とは、全国平均正答数との差が0.5問以内を示します			
小学校	ほぼ同じ	○ 文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめることが得意です。 ▲ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することが苦手です。	ほぼ同じ	○ 数や言葉を使って、判断した理由や根拠を説明することが得意です。 ▲ 図や表から、条件や数量の関係を正確に捉えることが苦手です。
	【結果から見えてくること】 「自分なりの考えをもつ力」には、日頃の授業で「考えをもつ時間」を大切にしてきた成果が表れていると考えられます。さらに、考えをもった後に、「 根拠は十分か 」「 相手に伝わるか 」と改めて見直すことで、考えを深めたり、よりよく表現したりすることにつながると考えます。			
中学校	ほぼ同じ	○ 情報と情報との関係を捉え、整理することが得意です。 ▲ 読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことが苦手です。	ほぼ同じ	○ 図形の性質を基に、筋道を立てて考えたり、証明したりすることが得意です。 ▲ 問題の条件を整理し、解決や説明の見通しをもつことに課題が見られます。
	【結果から見えてくること】 情報を整理したり、筋道を立てて考えたりする力に強みが見られます。さらに、課題に取り組む際に、「 どのように考えるか 」と見通しをもったり、考えた後に「 もっとよい説明にならないか 」と見直したりする場面を大切にしていきたいです。			
	英語			
中学校	ほぼ同じ	○ 英語を聞いて、必要な情報や話の概要・要点を捉えることが得意です。 ▲ 読んだことや自分の体験を基に、考えや気持ちを整理して、まとまりのある英文で表現することが苦手です。		
	【結果から見えてくること】 英語を書くこと全般が苦手なのではなく、与えられた情報をもとに書くことには強みも見られます。一方で、「 何を伝えたいか 」を自分で考えて整理し、 英語で表現すること には課題が見られます。こうした、場面を設けることを大切にしていきたいです。			

(3)質問調査から見る子どもたちの育ち

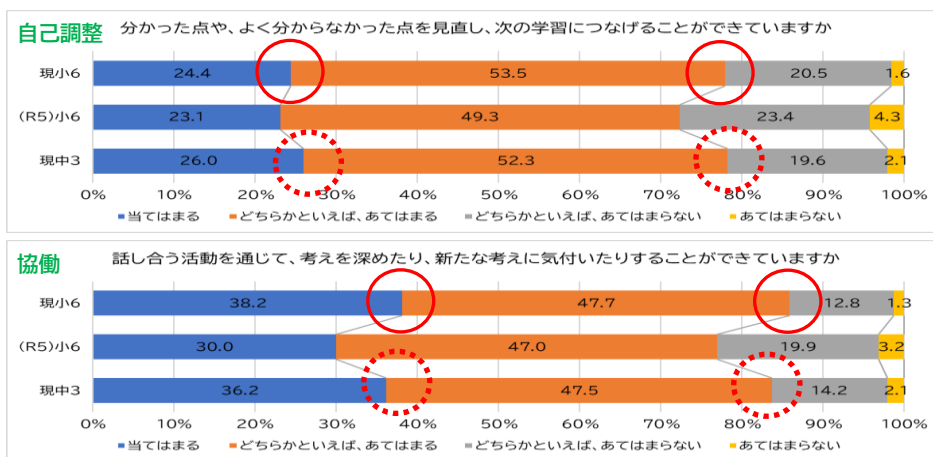
※「R5小6」は、現中学3年生と同一学年集団です。「R5小6」と現小6については、市全体の傾向の変化として比較しています。

①「次代を切り拓く力」につながる意識



- 現在の**小学6年生**を3年前の小学6年生と比べると、「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した割合が高くなっています。
- また、**中学3年生**を小学6年生時と比べると、自己肯定感や学校生活への肯定感、地域や社会に関わろうとする意識が高まっています。一方、「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は低くなっています。
- 子どもたちが自分や学校生活を肯定的に捉え、地域や社会への関心を高めているよさを生かしながら、**自分の将来や生き方について考える機会を充実させていくことが大切です。**

②これからの学びで大切にしたい「自己調整」と「協働」



- いずれの項目も、3年前の小学6年生と比べ、現在の小学6年生、中学3年生ともに肯定的な回答の割合が高くなっています。**自分で学びを振り返ることや、友達と考えを深めることを大切に学習の積み重ねが、こうした結果につながっていると分析されます。**

(4)クロス集計から見る生活習慣と学力との関係

- 朝食を毎日食べているよ
- 毎日、同じくらいの時間に寝ているよ
- 毎日、同じくらいの時間に起きてるよ
- 地域の図書館によく行くよ



調査で、左記のように答えている児童・生徒は、**国語の平均正答率が高い**傾向が見られました。

また、SNSや動画視聴の時間が長い児童生徒ほど、平均正答率・スコアが低い傾向が見られました。これらは因果関係を示すものではありませんが、家庭での生活習慣やメディアとの付き合い方を考える際の参考にしてみてください。